

■新川地区

・各校から指導に関する取り組みについて

1 時間ずつの授業のためその時間で完結するよう工夫している。

他教科と連携するように、科目の内容を工夫している。

・各校の現状と問題点について

技術的にできない部分がある。

情報の授業を複数の教員で持っているが、他教科の科目を持っているため情報部会を持つ時間がなく連携がとりにくい。

授業を持つ担当が4月の教科の都合で決められ、なかなか継続して行えない部分がある。

コンピュータ室が1つしかなく、重なって使えない部分もある。

コンピュータが古くなってトラブルが多く、その対応におわれると実習が進められないことがある。

毎年同じことをやっているような気がして、マンネリ化している。

・各校の現状と問題点について意見交換

他の教科とタイアップして実習等を進めている。

行事等とタイアップして学習や実習を進めるようにしている。

実習助手等の補助教職員等を増やし機会のトラブル等に対応できるようにしてほしい。

■ 富山地区

参加校 水橋、富山北部、富山東、富山、富山いずみ、富山南、富山中部、富山商業、富山工業、呉羽中央農業、富山西、八尾

①各校における今年度の授業の取り組みについて

・富山いずみ 情報Cをしている。実習を重視し、定期考査は実施していない。「産業社会と人間」と連

携し、情報では発表を通して情報発信する活動をしている。理科教諭と組んでチームティーチング(以下TT)でおこなっているが、情報指導の経験付属を感じる。情報Cではコマーシャル研究でマルチメディアも扱っている。ムービーメーカを使用し、携帯電話に保存してある写真自分の好きな音楽を使用させて関心を高めている。

・富山北部 情報Bを実施している。授業では、高校入学前の経験や到達度の差が大きく、困っている。学校では職業科もあり、実習室はほぼ埋まっており時間割の変更等は困難である。

・呉羽 情報Bを実施。アルゴリズムの単元では教科書とは異なった言語を使用している。

・富山南 2年で情報Bを実施。TTで授業をしている。

・富山西 情報Aを実施。校内アンケートによると自分のコンピュータ(PC)を持つ生徒は5%ほど。また10%の生徒は自宅にPCがない。TTで指導し、授業時数の約半分を実習である。コンピュータ室の他、クラス用のパソコンを集めた部屋も用意し、情報以外の授業でもPCが利用できるようにしている。

・富山中部 情報Bを1年と2年で1単位ずつ実施。授業しやすい教科書を求めて何度か教科書を変えてみている。生徒の能力の差が大きく、特にデータを適切に読み取り加工する力に大きな差を感じる。TTで授業しているが、教師用PCの画面を生徒に見せる手段について悩ん

でいる。

- ・水橋 数年間の情報Bの授業で、授業内容がおおよそ固定してきた。アルゴリズムの単元で使用するプログラム言語は、教科書を変えてもプリントでVBAを使用している。
- ・富山商業 商業科の情報処理の授業で代替。科によって異なるが1年で3～4単位実施している。検定合格を目指し、表計算やCOBOL言語等を実習している。コンピュータ室の他にもPCを設置してある実習室が複数ある。
- ・八尾 1年で情報Bを2単位実施。2・3年情報コースの生徒は検定合格を目指した授業もある。情報Bでは副教材の学習ノートを使いながら授業をしている。実習ではスキル向上にも力を入れている。
- ・富山 情報の免許を持たない教諭を含め4人で1年7クラスを担当している。TTはしていない。小中学校の指導の影響か、最近の生徒のプレゼンテーションは上手になってきていると感じる。Excel2007は、指導者が使い慣れておらず苦労している。
- ・中央農業 農業情報処理で代替科目としている。検定合格を目指し、表計算ソフトなどを中心に実習している。生徒用のディスプレイ2台の間に教師画面を表示するディスプレイを設置している。
- ・富山東 1年と2年で情報Bを1単位ずつ実施。定期考査全てを実施している。進度が遅く実習を省略している。実習室ではスカイメニューを用い教師画面を生徒用ディスプレイに表示している。情報Bの内容は難しく、どれだけの生徒が理解しているか疑問だ。今年度教員支援員の方から実習のお手伝いをいただいているが、コンピュータに詳しい方でないと難しい。
- ・富山工業 工業教科の情報技術基礎で代替しているが情報Bに変えていく必要があるかもしれない。授業は主に検定合格を目指すものだが、2進数や論理回路など、情報Bに通ずるところも多く、授業でコンピュータ室を利用することは多くない。実習室では生徒への提示用に中間モニタが設置されている。実習助手の方もいるが、専ら1人で授業している。授業では、支援員の方の協力はもらっていない。

■ 高岡地区

参加校: 高岡南・福岡・伏木・小杉・氷見・志貴野・有磯・大門・高岡西

①各校における今年度の授業の取り組みについて

- ・高岡南(情報 C) 1・2年で分割履修 2年については画像・音声のデジタル化から入り、動画の原理とアニメーションの作成、立体の表現として3D レンダリングソフトの体験、著作権の学習に続いて、今学期はディベート活動を総合実習として行う。
- ・福岡(情報 C) eラーニングの使い方、2進数、16進数、表計算ソフトの活用(グラフアートコンテストへの参加)、情報の収集、HTML
- ・伏木(情報C)免許取得者がいないため、臨時免許を取得し対応。教科書(日文)の順に行っている。プレゼンテーションではスライドは作成できても、発表はうまくできない。PCの更新作業が入り大変である。
- ・小杉(情報C)2単位を1時間は座学、1時間は実習と分けている。夏休みの就業体験の発表を情報の授業を使って資料を作成し、発表、相互評価を行う。2学期は大半が実習
- ・氷見(情報B)まず、携帯電話のモラルから入り、教科書に従って実施。3学期は学校紹介のプレゼンテーションを作成予定。(3年生の選択情報C)学校紹介のビデオを作成
- ・志貴野(情報A)コンピュータをさわったことのない生徒もいる。ものを作ることを通して授業を行ってい

る。携帯電話についてのDVDを利用した。

- ・有磯(代替科目で実施)資格取得を目標としている。多くの授業時間があり、コンピュータの仕組み、章作成、ホームページづくり、プレゼンテーション、チラシの作成、卒業アルバムの作成など。
- ・大門(情報C)自作のプリントを中心に展開。学校紹介リーフレットの作成、CM調査・研究など
- ・高岡西(情報C)まず、携帯電話のモラルから入り、職業・大学調べ+プレゼンテーション、動画の処理。

②携帯電話に関する取り扱い

- ・授業の中で使いたいときもあるが、校則とのかかわりもあり使えない。
- ・授業や教科書で扱われているにもかかわらず、利用を制限している点に疑問を持つ保護者もいる。

③ネットワークトラブルについての指導

- ・携帯電話会社に依頼して話をしてもらう。
- ・携帯電話会社の作成しているDVDを利用。
- ・警察署に依頼し講演会を実施。

■ 砺波地区

参加校:ふるさと養護、となみ野、砺波、となみ養護、南砺総合・福光

①情報免許の取得者について

となみ養護学校は、7～8 人いる。他の学校は、少ない人数で展開していて大変だと言うこと。しかし、養護学校については、「情報」を就学として捉えたとき、視覚的な教材開発が必要なため、少数人数でも、対応しなければいけない教師の配当が必要なため、例えば7～8 人の数でも決して多いとは言えないのが現状ある。

②「情報」の必要性について

養護学校は、生徒が就学や自立するために修学すべき教科として、扱われている。砺波、となみ野、南砺・福光については、いずれも前期は「情報モラル」について取り組んでいるが、ネット上でのモラル(電子万引など)について如何に指導すべきなのか、苦慮しているとのこと。常識として理解しているが、徹底までいかない。意識を如何に変えるかが課題である。

③授業担当者の補充として

授業を1人で行っている学校が1校、他は理科の実習助手の手助けをかりている。緊急支援対策として、外部の情報担当者(例えば、富山大学で情報教育を学ぶ学生)から支援いただくなどの対応策もある。

④他、各校ごとに「情報」の取り組みについて意見交換を行った。